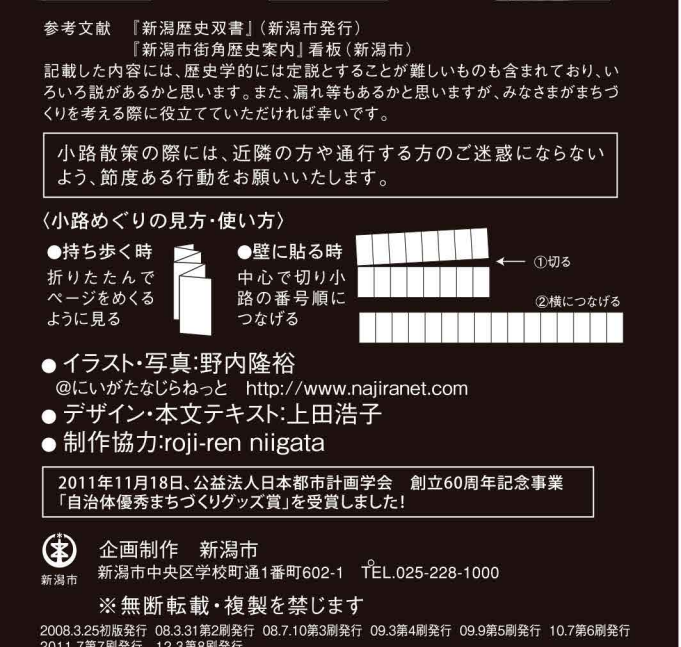
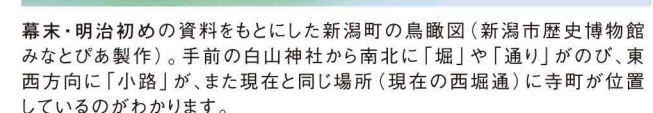




町の移転以降、川と海から運ばれてきた荷物を運搬・取引するため、信濃川の流れに沿うように南北方向に寺町堀（西堀）・片原堀（東堀）という2本の「堀」と、その間に「通り」が設けられました。そして「堀」と「通り」に直交する東西方向には5本の「横堀」と多くの「小路」が設けられました。

その後堀は埋め立てられ、昭和39年までにすべて道路に変わってしまいましたが、町並みや小路、堀の位置は当時のまま、昔から愛着を持って呼ばれてきた小路の名前もいまに伝えられています。



新潟市は2007～08年にかけて、本町通沿いの小路に名前の由来とイラストを盛り込んだ「小路案内板」を設置しました。このリーフレットは、その案内板のイラストを使って各小路を紹介しながら、白山神社から日和山住吉神社までめぐっていき構成になっています。そしてそれは、白山神社から信濃川に沿うかたちで堀と通りを設けて形成された、明暦時代以降の町並みをたどる道筋でもあります。

時代の流れの中で大きく姿を変えた小路もあれば、行き交う人を包み込む路地としての表情を残している小路もあります。それぞれの小路の魅力を楽しみながら、いまでも町に残る新潟の歴史を感じてください。



白山神社とその境内地が今の場所に定まったのは、17世紀半ばといわれています。江戸時代、白山神社の境内には商人の蔵があり、白山堀（後の一番堀）から米や商品を運んでいました。明治維新後、当時の新潟県令楠本正隆（1838～1902年）が日本最初の都市公園の一つとして白山公園を整備、日和山と並ぶ二大名所となります。

ここにはみなとまち新潟らしいものがいくつかありま

